

区政のここをきく

6月24日、25日の本会議にて、一般質問が行われました

一般質問要旨

※ 二次元コードから一般質問の動画が視聴できます



高齢者外出促進／ 職員採用について

茂木 弘
(自民党)



高齢者外出促進について

問 令和あらかわ病院の無料巡回車両の活用について、具体的な運行方法や利用者の範囲等を明確にし、貴重な税金が地域によって不公平にならないような取り組みを要望する。また、介護サービス事業者の送迎車の活用についても、運転手の手配や費用負担等、介護事業者に過度な負担をかけないように配慮すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 医療機関等の車両の活用にあたっては、国のガイドラインに沿った運用を行っていく。区の費用負担や巡回経路・停留位置の検討、本来の利用

者への影響の精査、事故発生時の取り扱いなど、利用者の利便性と安全性を確保し、効率的な運用となるよう事業者と協議を進めており、車両の活用開始後、利用状況等を適宜検証する予定である。



▲病院等の車両を活用した外出支援

問 シルバーパス購入費助成事業の実施は、本来であれば正式に予算委員会で審議すべき案件である。行政の都合で今回提案したのであれば、区議会を軽視していると感じる。区はいつどのように検討したのか。利用実態調査もされず、助成による効果や、申請数が想定を超えた場合の予算対応等について、どのように考えているのか。助成額の積算根拠の説明を求めるとともに、収入に応じた段階的な助成額とするなど、限られた財源の用途を再検討すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 令和7年1月の都によるシルバーパス値下げの発表を受け、相当の時間をかけ議論と熟慮を重

ねた結果、区独自の助成を実施すべきとの結論に至り、地域特性等を勘案し、助成額を一律とした。想定を超える申請があった場合も、全件対応できるようにしていきたい。物価高騰が続く中、スピード感を持って施策を講じることが重要である。外出による健康維持だけでなく、有機的な政策連携を進め、今後も様々な支援策を展開していく。

職員採用（教員他を含め）について

問 区の政策を推進していくために、勤労意欲や多様な専門知識・経験を持った優秀な人材の確保が不可欠である。PRの強化や人材育成のほか、離職防止策も重要であり、キャリアアップの明確化や、研修制度の充実も必要である。思い切った支援策を検討すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 区では、職員の採用活動を積極的に展開しており、出張説明会や動画作成など、幅広く荒川区をPRする取組に力を入れている。人材育成についても、実践的な研修や資格取得支援、派遣研修などを積極的に進めている。引き続き、職員が能力を最大限に発揮できる組織づくりを行っていく。



◀説明会の様子

問 教職員の採用についても同様の対策が必要であり、採用主体が都であっても、荒川区を希望してもらえるような取り組みが大事である。教員の採用、退職予防について、区の見解を問う。

答 スクール・サポート・スタッフの配置等の教員の負担軽減策を行い、区内外への発信にも努めている。学級経営研修生制度等の教員育成や離職防止策に力を入れており、今後も充実に努めていく。

その他の質問項目

○契約・入札について



シルバーパス購入費助成事業／ スクールカウンセラーの巡回滞 在時間の拡充について

山口 幸一郎
(公明党)



シルバーパス購入費助成事業の着実な実施

問 シルバーパス購入費助成事業の早期実現を求めてきた中でスピード感ある打ち出しは意義深く、着実な実施を要望する。シルバーパスは都の事業であるため、購入者は都に対し自己負担額を一度支払い補助を受ける必要があるが、手続きはシンプルにすべきである。区の見解を問う。

答 本事業を遅滞なく実施できるよう、業務プロセスの整理等、想定される様々な課題について検討し、準備を進めている。購入費助成の手続きをできるだけ簡素化することで、購入しやすい環境を整え、区や都等の高齢者外出促進事業と連携し、活用することで、しっかりと取り組んでいく。

スクールカウンセラーの巡回滞在時間の拡充

問 発達知能検査を行う心理士の増員など、スクールカウンセラーが児童生徒に寄り添える時間を増やすよう提案を行ったが、その後改善されていない。小中学生の自殺者数が増加する中、早急に体制を整えるべきと強く要望するが、見解を問う。

答 スクールカウンセラーの多忙化を解消し、十分な巡回相談時間を確保することは喫緊の課題と認識している。学校全体で連携を図りながら、発達検査の外部委託化を含め、業務体制の見直しを検討し、巡回体制の更なる充実に取り組んでいく。

その他の質問項目

○国や都の事業予算化により区の既存事業に係る浮いた財源の有効活用



▲
スクールカウンセラーの
巡回体制の拡充を



若者の居場所づくり／日暮里 駅周辺の環境改善について

清水 啓史
(ゆいの会 (都民ファースト・
国民民主・あたらしい党・無所属))



若者の居場所づくりについて

問 若者の孤独を防ぐためにも自分が過ごせる居場所が大事である。荒川区子ども・若者総合計画においても子ども・若者の居場所づくりについて示されており、空きスペースの活用等、予算をかけずにできることもある。居場所づくりの実施に向けた状況について、見解を問う。

答 若者相談「わっか」やひきこもり当事者等が過ごせる「ごろリンク」の運営、公共施設の活用、地域団体の運営支援等、若者の居場所の確保に努めている。庁内関係部署や地域団体との連携を強化しながら、鋭意検討を進めていく。

日暮里駅周辺の環境改善について

問 日暮里駅周辺のポイ捨てや収集日以外のごみ

出し等が問題となっている。A I 機能搭載防犯カメラの活用も含め、踏み込んだ改善策を検討すること。客待ち行為には、警察と協力し実効性ある行動と、他自治体を参考に荒川区生活安全条例の強化を求めるが、区の見解を問う。

答 ポイ捨てについては、警察と連携し有効策を模索していく。A I 機能搭載防犯カメラの実証も含め、引き続き効果的な取り組みを推進する。客待ち行為等についても、取り締まりや啓発活動等を更に強化するとともに、他自治体の事例等を調査研究し、より実効性のある制度を検討していく。

その他の質問項目

○グレーゾーン、境界知能の人への支援について



▲
日暮里駅周辺の
ポイ捨て等の問題改善を



物価高騰から区民を守るために／住み続けられるまちづくりと商店街振興について

横山 幸次
(共産党)



物価高騰から区民の命と暮らし、営業を守るために

問 エアコンの購入費及び修理費、電気代の補助を実施すること。また、エコ助成制度を低所得層でも利用できるよう、補助額も含めて改善すること。

答 エアコン助成事業は当初の目的達成のため令和元年度で終了した。エコ助成では、世帯所得に関わらず支援を行っており、今後も推進していく。

問 区内中小事業者の声を聞き、エネルギー・物価高騰に対する直接支援を検討・実施すること。

答 設備投資やマル経融資の利子への補助など、引き続き経営基盤の強化に向けた支援に努めていく。

住み続けられるまちづくりと商店街振興について

問 区内小売店舗空白地域や買い物困難者の実態調査等を行うとともに、小規模店舗の立地も含め

た「商業立地計画」の策定を求めるが、見解を問う。

答 特定のエリアに特定の業種の店舗を計画的に誘致することは困難であり、現時点で計画策定は考えていない。引き続き新規出店の支援に取り組む。

問 宮前商店会に適用されている特定商店街における出店支援事業を他の商店街や、商店空白地域などに対象を拡大し、出店を誘導すること。

答 商店街の維持活性化等を図ることを目的とした事業であり、商店街以外への適用は困難である。区内での開業促進に向けて支援を展開していく。

その他の質問項目

○庁議をはじめ政策決定過程の透明化を図るとともに、公文書管理条例を制定すること



▲エアコン代の補助とエコ助成事業の改善を



公契約条例／特別支援学級について

鎌田 理光
(自民党)



公契約条例について

問 公契約条例の制定には、運用面での課題を整理するとともに、事業者や関係団体の意見に耳を傾け、理解を得ることが何より大切である。条例制定に向けて、スケジュールや関係者からの意見聴取のプロセスをどのように進めるのか。今後の具体的な展望について、区の見解を問う。

答 より実効性の高い条例とすべく、現在各団体にヒアリングを実施しており、今後は頂いたご意見を踏まえ、パブリックコメントを経て、条例を制定していく。区発注案件の安定的な受注や労働環境の充実に向けて、関係各所にご理解いただきながら、条例制定を着実に進めていく。

特別支援学級について

問 自閉症・情緒障がいのある子どもには、学校とは別の場所で安心して学べる環境が必要である。発達障がいのある子どもの学習上・生活上の困難の改善を図るためにも、自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置は学校の建て替えを待ってからでは遅く、喫緊の課題であると考えるが、見解を問う。

答 今後、先行自治体の好事例を参考として、区内全域から対象の児童生徒が通いやすい場所の選定や、子どもたちの個々の特性に合わせた支援が着実に行えるよう、自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置に向けた検討を鋭意進めていく。

その他の質問項目

○中小企業のデジタル化支援について



▲公契約条例の制定にあたっては事業者等の理解を得ること



学校施設建替えを踏まえた 区の未来構想／公共施設の 建設・維持管理について

保坂 正仁
(公明党)



学校施設建替えを踏まえた区の未来構想

問 併設型義務教育学校を建設し、世界で通用する人材教育を成す学校の建替え計画を策定すべき。

答 現在、小中一貫校の整備計画を含め、学校施設建替え計画の策定準備を進めている。

問 学校の建替えでは、最新技術等を投入した災害時対応型のより強固で快適な施設を目指すこと。

答 非常用発電機や蓄電池の整備等を始め、必要機能を十分に備えられるよう、取り組んでいく。

問 校外型学校プールを設置し、区民にも開放すること、また、民間事業者の運営委託による水泳指導体制の確立を提案する。加えて、公共施設へのネーミングライツの導入について、見解を問う。

答 土地の確保等の課題はあるが、校外型プールの

調査・研究をしていく。ネーミングライツの検討を含め、あらゆる手法でまちづくりに取り組む。

公共施設の建設・維持管理について

問 公共施設建設の入札において、区職員の人材育成と区内企業の技術向上を落札条件に加えること。

答 発注方法を工夫し、区内企業が中心となって施設の建設等を円滑に進められるよう目指していく。

問 施設の法定点検において、調査事業者から結果を直接ヒアリングするほか、1・2級建築士の有資格者しか検査ができないよう検討すべき。

答 調査結果はヒアリングを踏まえ、対策を実施している。法定点検等とは別に、高度な知識を持つ建築士による点検について具体的に検討していく。



◀校外型学校プールの設置を



傍聴するには

- ・本会議、委員会はどなたでも傍聴できます。
 - ・傍聴を希望される方は、会議当日に区役所本庁舎5階の議会事務局で受付の上、傍聴券を受け取ってください。
- ※本会議ではヒアリンググループ及び字幕表示システムがご利用いただけます。
委員会での利用を希望される場合は、議会事務局まで事前にご連絡ください。



▲傍聴のご案内



音声及び字幕配信を実施中

- ・本会議及び委員会の音声をYouTubeで配信しています。
会議当日に配信を行うほか、荒川区議会YouTubeチャンネルから過去の映像や音声が見聴できます。
- ・本会議は字幕配信も実施しています。
会議当日、区議会ホームページからご覧いただけます。



▲音声配信



▲字幕配信





保育／路上喫煙対策

宮本 舜馬

（ゆいの会（都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属））



保育

問 区の保育需要と供給量を確認した上で、待機児童を発生させないためには、地区間での保育需要の流動性を確保し、地域偏在を減らすことが求められる。保育需要が落ち着いている地域へ保育希望者を送迎する送迎ステーションの設置や運行車両及び運転手の確保など他自治体を参考に、踏み込んだ対応をすべきと考えるが、区の見解を問う。

答 需要量と供給量については、区全体としてみれば、定員に空き枠がある。空き枠のある地域の保育園へ待機児童が発生している地域の児童を送迎



▲送迎バスによる移動支援

バスにより移動支援をすることは、一定の効果があると認識しているが、人材確保や送迎センターの確保が困難であることなどの課題がある。今後とも様々な可能性について検討していく。

問 保育施策のあり方の見直しの際、有識者等から意見聴取は行ったのか。拠点園を8園から5園に減らすことが妥当と考える根拠を示すべきである。あり方という保育の質は多様化するニーズへの対応であり公立園の削減が、保育の質の向上に繋がるのか。巡回指導も表面的指導でなく、より踏み込んだ対応が必要と考えるが、見解を問う。

答 保育園の利用者減少が見込まれることから、区内5地域に拠点園を1園ずつ配置することが妥当と判断し、保育施策のあり方は庁内検討と区議会の意見を踏まえた方針とした。保育の質向上には公立園を拠点園化することで生じる財源と人員を

活用し、保育士の技術向上等の取り組みを進め、巡回指導・指導監査などを今後も継続していく。

未来に向けた保育施策のあり方（令和6年度版）

23区では、令和元年度に区に於ける保育に関する施設と課題を踏まえた「未来に向けた保育施策のあり方」を策定しました。保育施設が置かれた保育サービスの提供に際して役割を果たしていくために、区内を地域（エリア）で分け、各地域の性格を踏まえ「拠点園」を設定し、各保育施設との連携を図っています。

令和6年度については、令和元年度版から5年が経過し、新しい道で少子化が進んだことにより、今後、保育行政が持続的に減少していくと考えられること、保育ニーズが多様化・複雑化していることを踏まえて、方針を改訂しました。

▲保育施策のあり方
（荒川区ホームページ）

路上喫煙対策

問 区がこれまで実施した路上喫煙対策は、どの程度の効果があったのか。依然として、区民からは路上喫煙や吸い殻のポイ捨てへの対応を求める声が大きくなっており、区民が効果を実感できなければ意味が無いと考えるが、区の見解を問う。

答 直近10年以上の歩行者に占める喫煙者の割合は横ばい傾向で、啓発活動と喫煙場所の確保が必要である。喫煙所新設に係る経費補助や喫煙マナー啓発指導員の増員等による注意喚起等の対策に努めており、今後も積極的に尽力していく。

問 路上喫煙に対する注意喚起や啓発活動には限界があり、過料の設定を強く要望する。23区で過料を設定している区の数と、過料設定に対する課題について、明確な説明を求める。日暮里駅には喫煙所も整備されているが、路上喫煙は無くならず、喫煙場所の有無が問題ではないことは明白である。必要な対応を求めるが、区の見解を問う。

答 過料の徴収は区職員が行う必要があるほか、必要な経費や労力、期待される効果を考慮した場合、課題も多い。23区では11区が条例に定めているものの、過料の徴収を行っているのは4区に留まっており、具体的な効果については厳しい面があることも確認できている。今後も効果的な対策を見極めながら、検討を進めていく。

その他の質問項目

- あらかわ遊園
- 教育
- 地域猫活動
- 地域問題



各議員名の横にある二次元コードから一般質問の動画が視聴できます。



がん検診の総合的検証について／不登校を生まない学校教育への転換を

斉藤 邦子
(共産党)



がん検診の総合的検証について

問 がん検診の有料化により受診をためらう人が増える可能性は大きい。有料化の検討は止めること。

答 受診者に配慮した料金設定とし、周知啓発に努めつつ、有料化に向けて関係機関と協議していく。

問 受診率向上のため、休日夜間診療やフォロー体制の検討など受診率の分析及び向上のための方策を具体化することが必要と考えるが、見解を問う。

答 受診率は概ね横ばいで推移している。検診場所を増やすとともに、医療機関からも受診勧奨をしていただき、受診率の向上を目指す。

過度な競争や管理教育を止め、不登校を生まない学校教育への転換を

問 全国学力テストと区の学力テストをやめること。

答 教育に関する検証改善サイクルの確立や学校での指導の充実・改善のため、今後も実施していく。

問 義務教育の保障のため、フリースクールの通学支援金の拡充と昼食代・交通費の支給を行うこと。

答 区独自の先進的支援策を実施中のため拡充の予定は無く、昼食代・交通費支給も予定していない。

問 不登校の状態にある家族も介護休業制度の対象となった。制度が適用できることを周知すること。

答 国に運用方法の確認を行うとともに、スクールカウンセラーや保護者等へ必要な周知を行う。

その他の質問項目

○物価高騰・介護報酬引き下げの影響を受けている介護・障害施設に緊急支援金を支給すること



フリースクールの支援拡充を



年を重ねても元気に暮らすために／子どもたちの幸せな子ども時代のために

明戸 真弓美
(自民党)



年を重ねても元気に暮らすために

問 ころばん体操の更なる充実に向けて、今後どのように取り組んでいくのか。対象者等への積極的な情報発信をすべきと考えるが、区の見解を問う。

答 健康運動指導士の派遣やアンケート調査の実施を検討するほか、情報発信の工夫等による自主運営会場の支援を行い、事業の充実に努めていく。

問 住民が主体となって活動をしている介護予防事業へのコンテンツ提供と研修の実施について、区による支援を進めていくべきと考えるが、区の見解を問う。

答 地域団体へのプログラム提供や出前講座等を通じ、高齢者が積極的に健康づくりを行える研修環境を整備するなど、引き続き取り組んでいく。

子どもたちの幸せな子ども時代のために

問 今後スーパー堤防の工事が行われる町屋公園の川沿いに昆虫などが観察できるビオトープを整備するよう、都に強く要望することを求める。

答 自然を身近に感じられる空間となり、生物多様性保全、水辺空間活用の視点からも有効と考える。ビオトープの整備について、都に要望していく。

問 瑞光橋公園の入り江でカヌーやボートが漕げるよう階段護岸を整備するとともに、入り江の水質改善を検討すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 入り江の活用には安全管理面やヘドロ除去等の課題がある。関係機関と協議し、階段護岸設置等も含め、将来的な改修について検討を進めていく。



荒川ころばん体操の更なる充実を



更なる子育て支援策／非日常体験ができる防災キャンプイベントの開催について



松田 智子
(公明党)

更なる子育て支援策について

問 保護者や学校等と意見交換をしながら制服のリユースを促進していくことは、教育費の負担軽減だけでなく、SDGsの達成にも繋がると考える。制服のリユース促進策について、見解を問う。

答 区立中学校全校で標準服のリユースの取り組みを行っている。今後も保護者の経済的負担軽減に努め、リユースを通して、子どもが持続可能な未来を考え、行動する機会となるよう努めていく。

問 奨学金返済で困っている区民を助けるため、都や国に対し奨学金の返済支援について強く要望するよう求めるが、区の見解を問う。

答 現在の取り組みを着実に推進するとともに、若者世代の奨学金返済の負担軽減に向けた支援策に

ついて、機を捉えて、国や都に要望していく。

非日常体験ができる防災キャンプイベントの開催

問 以前からテントを活用した防災訓練を提案してきた。文京区の事例を参考に、学校体育館で避難所生活が体験できる防災キャンプイベントの開催や、震災時にテントを利用した避難所開設を実行した方による講演会の開催を要望する。

答 ふれあい館等における宿泊イベントや各地域における防災講話の実施等、普及啓発に取り組んでおり、防災要素を追加した訓練や、有識者による講演会の実施についても検討していく。

その他の質問項目

○環境対策



制服のリユース促進を



福祉的視点からの病院送迎バス活用について／森林環境譲与税の有効な使い道について



山本 剛
(ゆいの会 (都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属))

高齢者の外出支援のため、福祉的視点からの病院送迎バス活用について

問 病院間の送迎バスについて、町屋駅や日暮里駅等を経由させることで、高齢者だけでなく他の世代の移動支援にも資すると考えられる。健康福祉が主眼の交通政策へ、現状認識と展望を問う。

答 高齢者の外出支援の方法や運行ルート等について事業者と協議している。併せて東京都シルバーバス購入費に対する区独自の助成等、様々な方策と各所管事業の連携により支援を推進していく。

他自治体と連携した荒川区の森林環境譲与税の有効な使い道及びその継続可能性について

問 森林環境譲与税の使い道として、多摩地域の森林資源を活用するほか、交流都市の村上市や福島市

などの森林を多く保有する自治体と協定を結び、現地で区民が植樹する取り組みがある。この取り組みが全国に広がれば森林環境税は下げられる可能性があるが、本事業の展望を問う。

答 「多摩の森活性化プロジェクト」に参加し、都内自治体と連携して持続可能な森林循環の確立に取り組むほか、これまで関係者の努力により培われてきた都市間交流を礎に、引き続き各地域にて森林環境譲与税を活用した事業を展開していく。

その他の質問項目

○町屋駅周辺の都道補助第90号線整備と、下水道幹線町屋幹線整備による生活環境への影響や浸水対策について



鮭のまちで学ぶ
森林・自然体験ツアー
(村上市連携事業)



あらかわ遊園・スポーツハウス
／令和あらかわ病院を軸とした
医療介護サービスについて
菊地 秀信
(公明党)



賑わいあるあらかわ遊園とスポーツハウスの
リニューアル

問 あらかわ遊園の現在の経営状況と今後の運営戦略について、区の見解を問う。

答 収支バランスを取ることが難しい状況である。収入を最大限活用し、持続可能な経営に努める。

問 スポーツハウスのリニューアルについて、現在の進捗状況と具体的な設計方針を問う。

答 本年8月に着工し、バリアフリー等課題の解決により、誰もが使いやすい施設にしていく。

令和あらかわ病院を軸とした医療介護サービスの提供

問 令和あらかわ病院の患者受入の実績と、地域包括ケア体制の強化に向けた今後の方針を問う。

答 患者数は増加しており、新クリニックの相談に立ち寄れるラウンジを整備する計画としている。

問 日本医科大学付属病院との連携による医師の派遣や専門性の高い医療提供体制について問う。

答 大学関係者が医師の8割を占め、総合的な医療サービスの提供や公開セミナー等を行っている。

問 区民のための施設整備について、見解を問う。

答 区民の健診などの取組を更に充実させる予定。

その他の質問項目

- 児童虐待防止対策としての児童養護施設を活用した対応の充実
- 広域避難場所としての宮前公園第三期の整備
- 教員の多忙化解消に資する学校運営のデジタル化



▲賑わいのある
あらかわ遊園を

令和6年度は40件の視察を受け入れました

件数が多かった視察内容	
No. 1	ゆいの森あらかわ・区立図書館・読書のまちづくり関連【18件】
No. 2	荒川区民総幸福度（GAH）【6件】
No. 3	中学校防災部【4件】

全国各地の議会が
視察に訪れているよ！



令和6年度 視察受入件数（月別）											（件）
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
3	3	8	3	3	4	3	3	7	1	2	0